

会議録（要旨）

					記録者 黒木 渚		
供 覧	部 長	次 長	課 長	課長補佐	主査・係長	グループ員	
件 名	令和5年度第1回龍ヶ崎市市民協働推進委員会						
日 時	令和5年12月25日（月） 午後2時～午後3時						
場 所	龍ヶ崎市役所5階 全員協議会室						
主 催 者	龍ヶ崎市市民協働推進委員会						
出 席 者	〔龍ヶ崎市市民協働推進委員会委員（8名）〕 福井 一喜 委員長、深澤 幸子 副委員長 松田 百合子 委員、伊藤 實 委員 飯田 光也 委員、佐藤 真智子 委員 小林 克己 委員、島村 宏之 委員  〔事務局（3名）〕 鴻巣 倫子 課長、福田 貴浩 課長補佐、記録者						
欠 席 者	稲川 めぐみ 委員（1名）						
傍聴人の数	0人						
会議の内容	議 題 （1）令和5年度市民活動サポート補助金の申請受付状況・事業実施状況について （2）龍ヶ崎市市民協働推進委員会の今後のあり方について						
情報公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開	非公開（一部非公開を含む）とする理由				年 月 日	
	<input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非 公 開						

発言者	発言の内容（要旨）
福井委員長	<p>本日はご多用な中、ご参集を賜りありがとうございます。</p> <p>2月8日以来となる久しぶりの開催ということで、事務局から事前に配布された資料を各々が確認しながら思い出し、今回の委員会に臨んでいただけたことかと思えます。</p> <p>また、事務局においても4月の機構改革に伴い課名が「コミュニティ推進課」から「地域づくり推進課」へと変更になり、併せて担当者も人事異動により中村主事に代わって、新たに黒木主事を迎え入れたと伺っております。</p> <p>— 事務局職員紹介 —</p> <p>それでは、令和5年度第1回龍ヶ崎市市民協働推進委員会を開会いたします。</p> <p>なお、本日は委員総数9名のところ8名の委員が出席されており、定足数に達していますので、会議が有効に成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>はじめに会議録の作成に当たり、会議録署名人を2名指名させていただきます。今回は、松田委員と伊藤委員にお願いいたします。</p> <p>おふたりには本日の会議録ができましたら内容をご確認の上、会議録に署名をお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の次第に従い、議事に入ります。</p> <p>議題（1）「令和5年度市民活動サポート補助金の申請受付状況・事業実施状況について」事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	— 説明 —
福井委員長	<p>ただいま事務局より、今年度新たに運用を開始した「市民活動サポート補助金」の申請の受付状況及びそれぞれの事業の実施状況等について説明がありました。</p> <p>なお、この議事に関しては事務局において要綱に沿った形で申請内容を審査し補助金の交付決定を行っているため、決定そのものに対してではなく、今後の更なる展開に向けての制度上のご意見や各団体へ伝えていただきたい事項、アドバイス、ご感想などをお聞かせいただければと思います。</p> <p>例えば、龍ヶ崎機関車推進協議会による「竹灯籠アート」のことで申し上げますと、「多くの来場者があったようだが、これについては八坂神社の祇園祭りの日程に合わせたイベント開催が効果的で良かったのではないか。」といった感じになるかと思えます。</p> <p>それでは、何かご意見・ご質問等がございましたら挙手の上、お願いいたします。</p>

<p>深澤副委員長</p>	<p>ジャンプアップ支援の実施内容を拝見すると継続できている事業とは、若い人たちに声をかけ、参加いただいているものではないかと思いました。今後の継続を考えて、若者にボランティアを募っていることはすごく良いのではないかと思います。</p> <p>後継者を作るためには、活動に興味を持っていただくことが大事だと思いますので、他の活動団体の事業でも若者をはじめとした市民に参加してもらえるように進めてほしいと思いました。</p> <p>市民活動センター主催の龍ヶ崎まちづくり講座「旧矢中家住宅（矢中の杜）の保存活用―“矢中の杜”の守り人の活動紹介―」に参加したところ、近代和風建築である「旧矢中家住宅（矢中の杜）」を案内・説明しているのは、筑波大学の生徒だと分かりました。どのような経緯で大学生がボランティアとして参加しているのか聞いたところ、筑波大学の校内にボランティア募集のチラシを貼り出しており、それに興味を持った学生が参加しているようです。</p> <p>大学生が活動に参加することで、私たちの年代では手が届かない人たちにもアピールができ、私たちの年代では想像がつかないような案を出してくれるのではないかと思います。そういうことも視野に入れ、これからは若者と関係を持てるような、また市民にもっと参加してもらえるような方向に持って行ってほしいと思います。</p> <p>「ど根性ひまわりの会」の活動をさんさん館で見かけましたが、会長がひまわりを植えたいろいろな人に声をかけ、写真を撮影していました。積極的にアピールしていくことも大事だと感じました。</p> <p>「たつのごプレーパーク遊んじゃ王」の活動は、雨でも実施しており、熱意がすごい。子どもたちが大喜びしながら遊んでいるのを見て、すばらしい活動だと思います。</p> <p>また、「NPO 法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会」の活動も会員の熱意がとても感じられ、すばらしいと思います。</p>
<p>島村委員</p>	<p>皆さん、非常に充実した活動を実施していると思いました。</p> <p>この活動を市民や中高生に広く知ってもらうため、市民活動センターで開催予定の事業報告会で発表してほしいと思います。参加は任意ではありますが、ぜひ全ての団体に発表してほしいと思います。</p>
<p>福井委員長</p>	<p>他にございませんか、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、次の議題（2）「龍ヶ崎市市民協働推進委員会の今後のあり方について」事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>— 説明 —</p>

福井委員長	<p>ただいま事務局より、前回から引き続きの審議事項である市民協働推進委員会の今後のあり方について説明がありました。</p> <p>ここで整理いたしますと、当委員会の今後のあり方について改めて事務局で検証し、庁内で協議した結果「継続」を前提として考えていきたいとの市側の意向であります。</p> <p>今般の新たな補助金制度への移行に伴い、当委員会を解散するのではなく新たに具体の役割を見出した上で、その役割を担っていただきたいとのことでもあります。</p> <p>なお、事務局より現時点で考えられる役割や今後求められるだろう役割について何点か例示がございましたが、これに関してはいかがでしょうか。</p> <p>例示されたもの以外で何か良い取組やご提案などがございましたら、お聞かせいただければと存じます。</p> <p>委員ご自身の自由な発想、考え方など、忌憚のないご意見等をよろしくお願いたします。</p>
深澤副委員長	<p>まちづくりポイント制度とは、防災の集まりなど市内のいろいろな行事に参加するとシールがもらえる、というものでしたよね。</p> <p>以前はそのような行事に参加すると、役員さんからシールを配布される場面をよく見かけていたが、最近はあまり見かけていないような感じがします。やはり、当時と状況などが変化してきたのかなと思います。</p> <p>制度開始から10年が経過するこの機会に市民が参加しやすく、興味を持つような制度を考えてみるのも良いのではないかと思います。</p> <p>タッポくん健康マイレージは、高齢者が喜んで活用しており、景品のために一生懸命参加しているのをよく見かけます。</p> <p>ポイントの配布方法もシールよりもっと簡単な方法があるのか、皆さんで検討してみるのも良いのではと思います。</p> <p>また、市民活動サポート補助金の定期的な点検や見直しは必要だと思います。</p> <p>やはり、市民協働と言うくらいですので、市民と協働でないとおかしくなってしまうと思います。市民の意見を聞きながら、この委員会でチェックや見直しをしていけたら良いのではないかと思います。</p>
福井委員長	<p>ありがとうございます。その他いかがでしょうか。</p> <p>まちづくりポイント制度は、過去にこの委員会で協議していたものなので、委員会で審議することは、文脈がちゃんとあるものだと思います。</p> <p>それから、市民活動サポート補助金の定期的な点検や見直しの重要性は、昨年度の議論でも必要だと皆さんおっしゃっていたことだと思います。</p>

島村委員	<p>委員各々が自由に市民活動・市民協働に関するテーマを持ち寄って議論することで、新たに市民協働に貢献するようなアイデアが生まれるかもしれません。今後は、意見の持ち寄りも委員の皆さんとやりたいと思います。</p> <p>また、市民協働について市民の意見を公式に話し合える、市の事業へと反映できる場というのはここだけしかないので、ぜひ委員会は存続していただきたいです。</p> <p>あと補助金制度の定期的な点検とは具体的にどのようなイメージでしょうか？</p>
事務局	<p>本日の議案(1)のような形で、事業の報告等を行いたいと考えております。</p>
島村委員	<p>分かりました。</p>
松田委員	<p>委員会の廃止によるメリットもある中で、制度の見直しや急な案件等が生じた場合の対応を考えると、存続するメリットの方が大きいのかなと思います。何かあったときに対応できる委員会として、存続で良いかと思います。</p> <p>また、開催回数を今までより少なくする等できるかと思いますので、出席する市民の負担や行政の事務作業の負担軽減につながると考えられます。ただ、その一方で年度によっては議題が異なるので、その時々に対応が必要になると思います。</p>
小林委員	<p>説明や資料を見たところ、非常によくまとめてあるというのが私の率直な感想です。</p> <p>この形で存続できるのであれば、存続してもらいたいと思います。ただ、条例の趣旨から若干ずれてきているのも事実なので、そちらが事務局の方で整合性が取れるのであれば存続で良いかと思います。</p>
佐藤委員	<p>現在のように、市民が自ら活動することが続くことが理想だが、将来的には自然と活動が縮小してしまうようなイメージがあります。</p> <p>今後、この委員会がどのような形になるかは分かりませんが、今活動している方が高齢化している中で「もう引退していいかな」ではなく、「やっついこうよ」というような雰囲気をもんが持っていれば今後にもつながると思います。そして、若者や子どもたちといった、若い力を呼び込むことが大きな課題だと思います。</p>
飯田委員	<p>資料4ページの附属機関設置の基本的な考え方のところで、設置目的や所掌事項は重複しないのか確認させてほしいです。5ページに参考として記載がある、まちづくり基本条例や龍ヶ崎未来創造ビジョンと同じ内容ではないのでしょうか。</p> <p>委員会が存続することは私も賛成ですが、他の条例との整合性が取れているのか確認していただきたい。</p>

事務局	<p>まちづくり基本条例は、市としての基本理念を述べており、一番大きな考えの土台のようところで、それを基に個々の事業等に関する条例等があるのかと思います。また龍ヶ崎未来創造ビジョンは、市の最上位計画であり、企画課で持っている附属機関で意見をいただきながら策定しているものです。いずれも“協働”というキーワードの中で整合性もあると認識しています。</p>
伊藤委員	<p>昨年から委員会に参加させていただきましたが、この委員会の役割がよく飲み込めていないのが現状です。事後報告を受けるだけが委員会の役割なのか？それとも市民活動を活発化させる内容を討議する委員会なのか？</p> <p>活動の内容について、「具体的にこうしたほうがいい」「こうあるべきだ」など、そういった意見をこの委員会で提言できる方がいいのではないかと思います。</p> <p>市民活動・市民協働に関する課題などをこの委員会から発信しても良いのではと思います。それに応じて、いろいろな団体が活動に取り組むようになるかもしれません。例えば、「市民の健康について」という課題を出す、それに伴い「歩け歩け大会」や「プールを使った水泳教室」など、様々な活動が考えられると思います。年度ごとに重点的に議論するテーマを変えていく方法も良いかと思います。</p>
福井委員長	<p>個人的には、補助金の定期的な点検は当然行うものだと思います。点検と委員各々がテーマを持ち寄り議論するだけだと尻つぼみになってしまう可能性がありますので、制度の見直しなどで委員会として提言し、動かすことができればと思います。</p> <p>もちろん、伊藤委員がおっしゃっていた各委員が自由にテーマを持ち寄ることも、新しい発想が生まれて良いのではと思います。</p> <p>提案の追認だけだと若い人も委員になりたいとは思わないかと考えますので、委員として参加することで、まちを動かしていけるというような、やりがいがあると良いかと思います。</p>
佐藤委員	<p>委員会に若い人が入ってもらえるような形がとれば良いと思います。普段は同じ年代の人と話していることが多いのですが、10～30歳ぐらい年が離れている人と話すと、全然違う考え方を持つ人が結構います。異なる考え方を持つ人たちと仲間になり分かり合えたら、今までにないような発想が出てきて、新しい龍ヶ崎が生まれると思います。</p>
深澤委員	<p>流通経済大学と市は連携して様々な活動を行っていますので、この委員会も学生に参加してもらうのはいかがでしょうか。</p> <p>私たちの年代になると発想の転換と言われてもなかなか難しい部分がありますが、若い人たちと議論をすると驚くような発想が飛び交うことがあります。ぜひ、委員の中に大学生を入れることも検討されたら良いと思います。</p>

松田委員	<p>私も、大学生に参加してもらうことに賛成です。流通経済大学の中でまちづくりをテーマとしている学科やサークルなどがあれば、その中で出た意見を委員会に持ち寄り、議論できたら良いと思います。学生側としても、年代の違う人と話すことで勉強になるのではないのでしょうか。</p> <p>また、委員各々がテーマを持ち寄り議論することにも賛成です。既に佐藤委員や伊藤委員から出た意見をテーマに、今後の委員会で検討しても良いのではと思いました。</p>
福井委員長	<p>非常に前向きな意見が多く出たかと思います。</p> <p>それでは、議題(2)となる当委員会の今後のあり方について当委員会としては、次に述べるとおり結論付けることにしたいと存じます。</p> <p>当委員会としては、市側の意向を尊重した上、その必要性を踏まえ、この委員会自体を「継続」とさせていただきます。</p> <p>また、今後の委員会の役割すなわち今後の議事に関しては、本日いただいたご意見等を踏まえつつ、その都度、事務局側と調整し決定していきたいと考えております。</p> <p>委員各位においては、何卒ご理解と引き続きご協力のほどよろしく願いいたします。</p> <p>以上で、本日の議事は終了いたしました。全般を通して何か気になる点やご質問等がありますでしょうか。</p>
松田委員	<p>委員会を継続するにあたってのデメリットのひとつである、委員の負担についてですが、委員会の開催日数は決められているものなののでしょうか。</p>
佐藤委員	<p>特に決められてないと思います。</p> <p>開催回数が増えると、何か事案があったときに予算的な部分で難しくなると思うので、前年度は自主的に集まって、ざっくばらんに意見を出し合ったことがあります。そのような自主的な集まりにも参加していただけるような方が委員になってくれるといいですね。</p>
事務局	<p>予算的には、前年度の実績に基づき5回分程度確保できるかと思います。以後については、状況を鑑みながら予算計上していきたいと思います。</p>
島村委員	<p>自主的な集まりへの参加を前提に委員を募ってしまうと、委員を立候補する方の負担になってしまうと思いますので、集まった委員のメンバーの中で自然と自主的に勉強会しようという雰囲気になるような形が理想かと思います。昨年開催した自主的な集まりは、良い意見がたくさん出て本当に良かったです。</p>
深澤委員	<p>初めからいろいろと注文をつけると若い人は入ってこないと思うので、自由な雰囲気に入ってきてもらい、参加している中で機運が盛り上がっていったら良いかと思います。</p>

<p>福井委員長</p>	<p>制度化することは難しいと思いますが、上手いことそのような形で進められたらと思います。</p> <p>それでは、今回の会議をもって予定していた令和5年度における市民協働推進委員会は終了となります。</p> <p>本年度は、本日1回のみで開催でありましたが、新たにスタートした補助金制度の運用開始後の状況等を確認することができ、併せて当委員会の今後のあり方についてもその方向性が定まりましたこと、感謝申し上げる次第です。</p> <p>なお、私どもの委員の任期は来年6月30日までございますので、それまでの間に急な案件等が発生した場合は事務局側と調整し会議の招集をさせていただきますので、何卒ご了承のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>その一方で、急な案件等が発生しない限りは実質今回の会議終了をもって、ひとつの節目になるかと思えます。もしかすると、このメンバーによる会議としては今回が最後になるかもしれません。今はまだ12月ですので、時期的に少し早いような感覚もございますが、皆さま方のお力添えのおかげでこれまでの会議が円滑に進みましたことそして、委員長の職務を遂行できましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。</p> <p>次回もまた、この経験豊かな顔ぶれが揃い、協働によるまちづくりの推進と市民活動の促進を図るため、ともに調査・審議し、引き続き当委員会の運営に当たることができまことを切望する次第です。</p> <p>それでは、以上をもちまして、本日の委員会を閉会とさせていただきます。</p>
	<p>上記については、令和5年12月25日に開催した令和5年度第1回龍ヶ崎市市民協働推進委員会の会議録に相違ない事を確認したので署名する。</p> <p>令和 年 月 日</p> <p>会議録署名人 _____</p> <p>会議録署名人 _____</p>